

はじめに

本書は、平成 26（2014）年度～平成 30（2018）年度科学研究費補助金基盤研究(A)「日本語の時空間変異対照研究のための『全国方言文法辞典』の作成と方法論の構築」（課題番号：26244024・研究代表者：日高水穂）の研究成果報告書である。以下に本研究の概要を示す。

目的と経緯

本研究は、日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全国方言文法辞典』の編纂を目的として、要地方言を統一的に調査するための共通調査項目を策定し、各地方言（標準語を含む）の文法的側面に関する対照研究を行うものである。

すでに、2014年3月に『全国方言文法辞典資料集(2)活用体系』、2017年1月に『全国方言文法辞典資料集(3)活用体系(2)』を刊行し、以下の要地方言の活用体系記述を行った。

『全国方言文法辞典資料集(2)活用体系』

岩手県盛岡市方言	竹田晃子
秋田県由利本荘市本荘方言	日高水穂
山梨県甲府市方言	吉田雅子
富山県富山市方言	小西いずみ
岐阜県岐阜市方言	山田敏弘
滋賀県長浜市方言	酒井雅史
京都府京都市方言	松丸真大
大阪府方言	野間純平
山口県東周防方言	船木礼子
福岡県福岡市方言	平塚雄亮
沖縄県那覇市首里方言	仲原穰
沖縄県宮古島市平良下里方言	中本謙

『全国方言文法辞典資料集(3)活用体系(2)』

山形県山形市方言	竹田晃子・澤村美幸
茨城県水海道方言	佐々木冠
群馬県藤岡市方言	新井小枝子
東京都方言	三井はるみ
石川県能登島方言	野間純平
静岡県湖西市方言	森勇太
愛知県新城市作手方言	山田敏弘

兵庫県神戸市方言	酒井雅史
岡山県岡山市方言	小島裕将
広島県三次市方言	小西いずみ
高知県宿毛市方言	松丸真大
大分県由布市庄内町方言	松田美香
鹿児島県甕島里方言	平塚雄亮
沖縄県多良間島方言	下地賀代子

本書はこれに引き続き、本土方言 9 地点の活用体系の記述を行うものである。最終的には、本土方言では 46 都道府県から 1 地点ずつの 46 地点と島嶼部の要地方言 4 地点程度、琉球方言では 6 地点程度の記述を整える計画となっている。

本書の活用体系の記述方針は、『全国方言文法辞典資料集(3)活用体系(2)』の「この報告書における記述の枠組み」を踏襲しており、本書にもこれを再掲する。本書の要地方言の記述は、本研究の母体である方言文法研究会のメンバーに加えて、門屋飛央氏、久保博雅氏、佐々木冠氏、武田拓氏、友定賢治氏、半沢康氏、平子達也氏、松倉昂平氏に、各氏のフィールドとする要地方言の記述を依頼した。各執筆担当者の原稿を一貫した記述方針のもとに整える作業は小西が行い、本書の全般的な編集作業は日高が行った。

本書には、この要地方言の活用体系記述に加えて、『方言文法全国地図』略図集を収録する。国立国語研究所編『方言文法全国地図』(1~6集、1989~2006年、財務省印刷局)は、1979年から1982年にかけて、全国807地点の65歳以上の話者を対象に実施された、297項目にわたる文法項目に関する聞き取り調査に基づく全国分布図である。全国の方言文法を俯瞰するための、最大規模の統一的調査であり、我々の研究プロジェクトにも多くの指針を与えてくれる貴重な資料である。本書に収録するのは、方言文法研究会のメンバーがこれまでに作成した略図である。必ずしも元図の情報を網羅的に取り上げたものばかりではないが、元図の複雑な情報を観点をしぼって作成した略図が一覧できる便は大きいと考え、ここに収録することとした。

本研究の母体である方言文法研究会は、2001年に以下の方針のもとに活動を開始した。

- ・方言の文法に関する記述をより精密なものにする。
- ・全国方言の文法形式、文法現象をできる限り網羅する。
- ・言語の対照研究に興味を持つ人全般に向けて情報発信する。

本研究会の最終目標は、上にも述べたように、『全国方言文法辞典』を成すことである。本研究会のこれまでの研究成果は、以下のウェブページにおいて公開している。

<http://hougen.sakura.ne.jp/>

最終的な『全国方言文法辞典』を成すためには、より広く諸方言の情報を収集していく必要がある。今後とも多くのご教示をいただきながら、本研究を進めていきたい。

研究組織

- 研究代表者： **日高 水穂（関西大学・教授）
- 研究分担者： 青木 博史（九州大学大学院・准教授）
- **小西いずみ（広島大学大学院・准教授）
- 小柳 智一（聖心女子大学・教授）
- 下地賀代子（沖縄国際大学・准教授）
- 高木 千恵（大阪大学大学院・准教授）
- **竹田 晃子（立命館大学・専門研究員）
- 中本 謙（琉球大学・教授）
- *野間 純平（島根大学・講師）
- 林 良雄（秋田大学・教授）
- *平塚 雄亮（志学館大学・講師）
- **船木 礼子（神戸女子大学・准教授）
- 前田 直子（学習院大学・教授）
- **松丸 真大（滋賀大学・教授）
- **三井はるみ（国立国語研究所・助教）
- **森 勇太（関西大学・准教授）
- 矢島 正浩（愛知教育大学・教授）
- 山田 敏弘（岐阜大学・教授）
- 連携研究者： 仲原 穰（琉球大学・非常勤講師）
- 研究協力者： 新井小枝子（群馬県立女子大学・准教授）
- **井上 文子（国立国語研究所・准教授）
- **大西拓一郎（国立国語研究所・教授）
- *門屋 飛央（福井工業高等専門学校・助教）
- *久保 博雅（広島大学大学院・研究生）
- 小島 裕将（広島大学大学院・院生）
- 酒井 雅史（関西大学・非常勤講師）
- *佐々木 冠（立命館大学大学院・教授）
- 澤村 美幸（和歌山大学・准教授）
- *武田 拓（仙台高等専門学校・教授）
- *友定 賢治（県立広島大学・名誉教授）
- *半沢 康（福島大学・教授）
- *平子 達也（駒澤大学・講師）
- *松倉 昂平（東京大学大学院・院生／日本学術振興会 DC1）
- 松田 美香（別府大学・教授）
- **吉田 雅子（実践女子大学・非常勤講師）
- *本書の「要地方言の活用体系記述」執筆担当者
- **本書の『方言文法全国地図』略図集」略図作成者

交付決定額（配分額）

平成 26(2014)年度	9,490 千円	（直接経費：7,300 千円、間接経費：2,190 千円）
平成 27(2015)年度	7,280 千円	（直接経費：5,600 千円、間接経費：1,680 千円）
平成 28(2016)年度	7,800 千円	（直接経費：6,000 千円、間接経費：1,800 千円）
平成 29(2017)年度	7,280 千円	（直接経費：5,600 千円、間接経費：1,680 千円）

2018年3月

日高水穂